

日本語母語話者の韓国語学習に関する意識調査

A Study of Japanese Native Speaker's Consideration in Learning Korean Language.

金 敬鎬
Kyungho KIM

Abstract :

The number of Japanese learners in learning Korean language in Japan has been increasing than it was. Therefore, The purpose of this study is the report on the current state and the analysis result of the Japanese native speaker's consideration in learning Korean language.

The result of investigation in this study is analyzed that Japanese native speaker considered it difficult about pronunciation and grammar, vocabulary, usage etc.

Then, there were a lot of voices to request "Development of a comprehensible text" and concerning the system like specialization and the systematization in Korean education.

It seems that various elements and the relations like politics and economy, and the culture influence the foreign language learner's increase and decrease. Many of those who majored in Korean answered in this investigation that "hanryu" had motivated it. Therefore, it is necessary that the policy of Korean language education in Japan will be made to expand it and reconstructed of the system, such as special educational institutions and an appropriate teaching material.

キーワード : 韓国語教育、韓国語学習、学習動機、学習目的

Key Words : Teaching of Korean language. Learning Korean、Motives of learning, Purpose in learning

1. はじめに

2002年日・韓ワールドカップサッカー共同開催や日本における韓流ブーム等の影響でそれ以前と比べて韓国について日本人のイメージが少しずつ良いほうに変わりつつあるとマスコミや統計調査によって報告される。その変化に伴い、韓国語や文化についての興味も増加し、韓国語学習者や韓国語教育も拡大しつつあると報告⁽¹⁾されている。なお、〈大学等と高等学校の教員から見て、学習者が変化していることは間違いないが、学習者の量的な拡大と質的な多様化に教育制度が追いついていないのが現状である⁽²⁾〉とも指摘されている。したがって、韓国語学習における日本語母語話者の意識を調べ、今後の日本における韓国語教育の普及や拡大を計るための調査資料が必要と思い、その現状や分析結果を報告したい。

調査項目としては三つの分野にわけた。すなわち「学習者の学習動機や目的」や「学習者が感じている学習分野別の難しさや問題点」、「韓国語教育についてのあり方や改善点」等に分けそれぞれ項目を作りアンケートによる調査を行った。

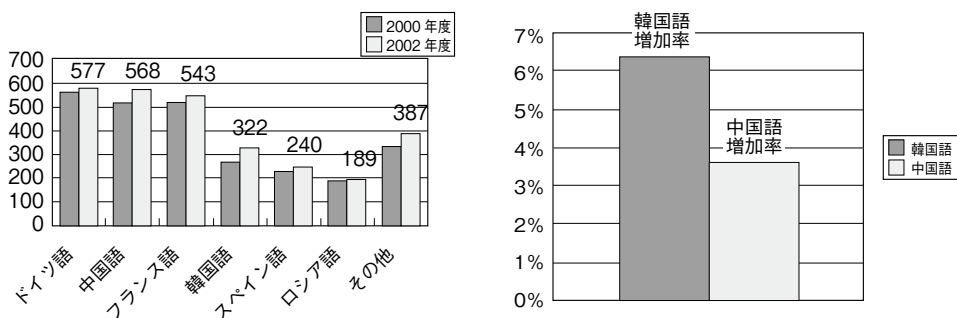
2. 日本における韓国語教育の実態

小栗（2007）は日本の4年制大学における2002年度の外国語実施率について次のように報告している。

〈2000年度との伸び率の比較では、ドイツ語、フランス語がわずかながら減少しているのに対し、韓国語と中国語の実施率はそれぞれ6.4ポイント、3.6ポイント高くなっている〉

この報告によれば、2002年度の調査時点での韓国語を実施している4年生大学は私立、国立（公立）を合わせ、322の大学で韓国語講座が行われていることがわかる。その増加率を他の外国語と比べると〈表1〉のようである。

〈表1〉韓国語教育実施大学の数（2002年）と増加率



さらに2003年度の4年制大学での韓国語教育実施状況は335校に増加していることが報告されている。このような状況を踏まえて考えてみれば日本における韓国語教育は年々拡大していることがわかり、2007年度現在には以前と比べて多く増えていることと推察される。

このように日本における韓国語教育が拡大しつつある中、実際日本語母語話者は韓国語やそ

の教育のあり方についてどのように感じているかを調べるため意識調査を行い、報告する。

3. アンケートによる意識調査

3. 1. 調査の目的

日本における韓国語教育の現状や韓国語学習者の意識を調べ、日本語母語話者が感じている韓国語学習や教育のあり方を把握し、その結果を日本における韓国語教育の将来の方向や取り組みに活用するための基礎資料を作るべく次のような方法で調査を行った。

3. 2. 調査の概要

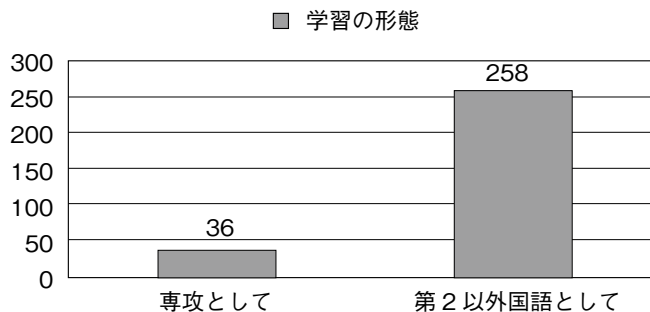
- 1) 実施期間：2007年5月
- 2) 調査方式：無記名によるチェックや記述形式
- 3) 調査大学：杏林大学、桜美林大学、日本大学、筑波国際大学、実践女子大学、目白大学
- 4) 回答者の内訳：韓国語学習経験者
- 5) 回答者の数：312名（男：148名、女：164名）

3. 3. 調査内容と回答結果

3. 3. 1. 韓国語学習の形態について

韓国語学習の形態を調べるために「どのような形態で韓国語の学習をしていますか」という質問項目を設け調べた結果、次のような回答があった。

〈表2〉学習形態⁽³⁾



今回調査を行った大学で韓国語専攻が設置されているのは目白大学だけであり、他の5大学には専攻や学科が設置されていない。したがって回答者の数には韓国語専攻者からの回答は36名であるのに対し、第2外国語として韓国語を学習する回答者の数が258名で第2外国語として韓国語を学習する回答者が多くなる結果となった。この結果によって日本の大学で韓国語を専門に教えているところは現時点では少ないこととほとんどの学習者が大学で韓国語を学ぶ際には、第2外国語として学習していることがわかった。

3. 3. 2. 韓国語学習歴や平均学習時間について

週1時間以上の学習を基準として「韓国語の学習歴」について聞いた結果は〈表3〉のとおりである。専攻として学習している学習者（以下「専攻者」と称する）と第2外国語として学習している学習者（以下「第2外国語学習者」と称する）と分け、詳細を見てみると第2外国語学習者の回答においては「3ヶ月未満」と答えた人がもっとも多い226名、84%にのぼる。一方「1年以上学習している」と答えた学習者も27名、10%を占める。専攻者の回答においては「3ヶ月未満」と答えた学習者が6名、16%で、「1年以上」と答えた学習者が26名、72%を占めている結果になった。この結果を分析すると第2外国語学習者の殆どは大学に入った後から韓国語学習を始めた人が多いことと推察される。

韓国語学習者の学習形態と学習時間の相関関係を調べるために「1ヶ月間の平均学習時間」を聞いた質問には第2外国語学習者においては「6時間未満」と答えた人が180名で、比率的には67%に至った。それに比べて専攻者においては「15時間以上」が26名、75%を占めた。この結果によれば学習時間は学習形態によって多く変わることを示している。

〈表3〉学習歴と学習時間

学習歴	3ヶ月未満	4～6ヶ月	7ヶ月～1年未満	1年以上
人数	226 (6) 名	8 (3) 名	7 (1) 名	27 (26) 名
学習時間	6時間未満	～10時間未満	～15時間未満	～15時間以上
人数	180 (3) 名	58 (3) 名	17 (4) 名	14 (26) 名

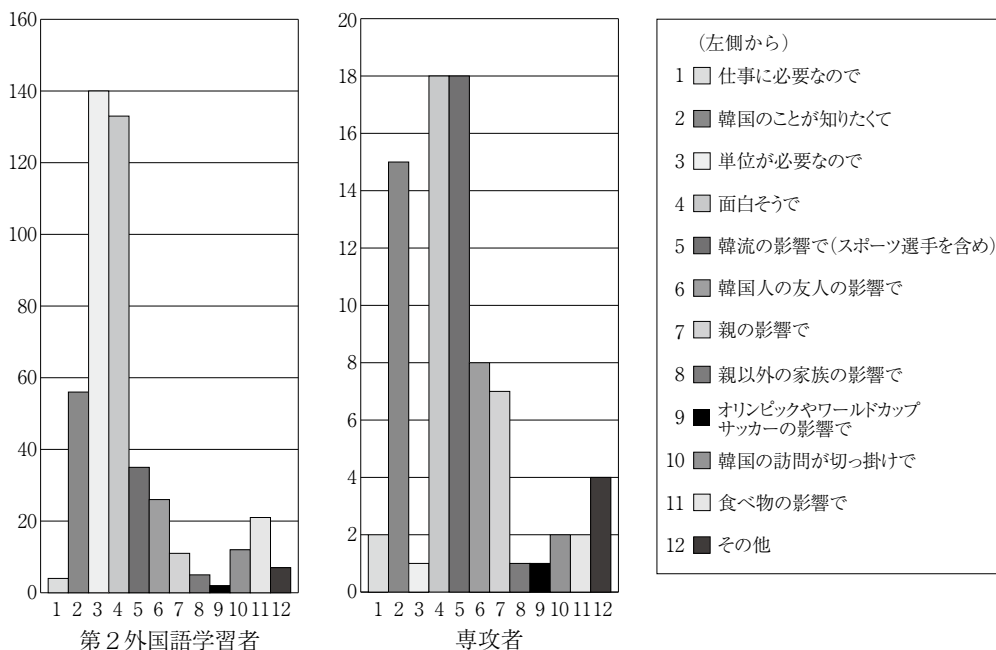
*括弧の中は専攻者の数（以下同）

3. 3. 3. 韓国語の学習動機について

外国語の学習には様々な動機やきっかけがあると思われる。今回の調査においても日本語母語話者はどのような動機を持っているかを調べるために「韓国語を学習するようになった動機は何ですか。（複数解答可）」という項目を設け、得られた結果をまとめると〈表4〉のようになる。

この結果を分析してみると第2外国語学習者は学習の動機として「単位が必要なので」と答えたのが一番多い140回答で30%に至る。その次が「面白そうで」が133回答で29%強を占めることとなった。一方専攻者においては、もっとも多い動機として「面白そうで」と「韓流の影響で（スポーツ選手を含め）」が同じく22.7%を占めている。この結果を分析してみると第2外国語学習者は学習動機として「大学の単位」としてやむを得ずに学習するという面でその動機が積極的というより消極的と思われる。それに比べて専攻者においては単位などの間接的な要因より韓国文化の影響によって韓国語を学ぶ積極性がみられるのが第2外国語学習者と異なり、動機の面において自発的で積極性を持っていることが推察される。

〈表4〉学習の動機



3. 3. 4. 韓国語のイメージや学習後の変化について

言語の学習においてその国のイメージは言語学習にどのような影響を与えるか、または学習後にどのようなイメージ変化が生じるか等を調べるために「韓国語を他の外国語と比べて身近に感じているか」や「韓国語学習以前の韓国のイメージについて」そして「韓国語学習後のイメージ変化について」調べ、次のような回答を得られたのでその結果をまとめると〈表5〉のようになる。

〈表5〉韓国語のイメージや学習後の変化について⁽⁴⁾

1) 韓国語は他の外国語と比べて身近に感じていますか。	はい (専攻)	216 (34)	理由	隣国なので	74 (10)
				接するチャンスが多いので	44 (17)
	いいえ (専攻)			日本語と類似点が多いので	74 (25)
2) 韓国語を学習する以前には韓国についてどう思いましたか。	良かった				77 (2)
	良くも悪くもなかった				81 (13)
	あまり良くなかった				172 (20)
3) 韓国語を学習後、韓国についてのイメージは変わりましたか。	変わった	111 (31)		良いほうに	91 (29)
				悪いほうに	4 (3)
	変わらなかった				161 (4)

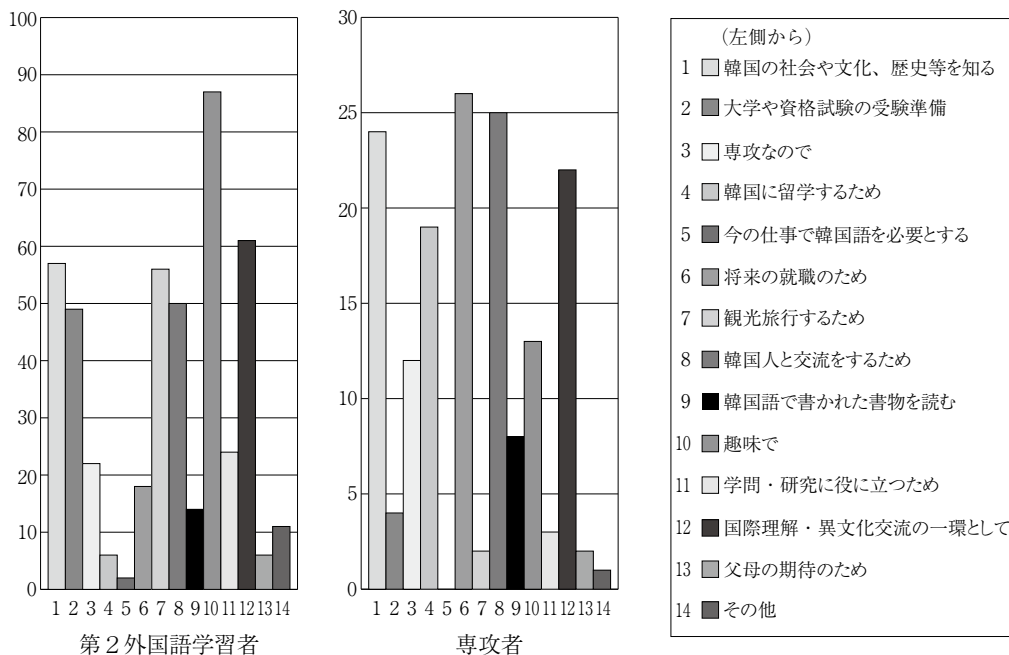
「他の外国語と比べて韓国語を身近に感じているかどうか」について聞いた結果、〈表5〉でわかるように第2外国語学習者と専攻者の両方の多くの回答者が「はい」と答えた。その理由

としては第2外国語学習者においては「隣国なので」と「日本語と類似点が多いので」が挙げられ、専攻者においては「日本語と類似点が多いので」が1位で、その次に「接するチャンスが多いので」が選ばれた。韓国語の学習以前の韓国のイメージを聞く質問には「良くも悪くもなかった」という中立的な答えがもっとも多かった。韓国語を学習した後、韓国についてのイメージの変化について聞いた結果、第2外国語学習者においては「変わらなかった」と答えた人が多かったが、専攻者においては多くの学習者が「良いほうに変わった」と答えた。この結果は専攻者と第2外国語学習者との差は存在するが、韓国語の学習が韓国のイメージ変化にも大きい影響を与えることがわかった。

3. 3. 5. 韓国語学習の目的について

韓国語学習の目的について調べた結果、第2外国語学習者においては「趣味で」学習をしていると答えたのが最も多い18.7%を占めた。その次が「国際理解・異文化交流の一環として」で13.1%を占めた。一方、専攻者の回答においては「将来の就職のため」が最も多い16%を占め、「韓国人と交流をするため」が15.5%、「韓国の社会や文化、歴史等を知るため」が14.9%に至り比率の差は少しあるが、ほぼ同じ比率で表れた。一方第2外国語学習者の答えで最も多かった「趣味で」と答えたのは8%で、第2外国語学習者と専攻者の間で目的が異なることがわかった。その結果を表でまとめると次の〈表6〉のようになる。

〈表6〉学習の目的



3. 3. 6. 韓国語のレベルや学習の難易度について

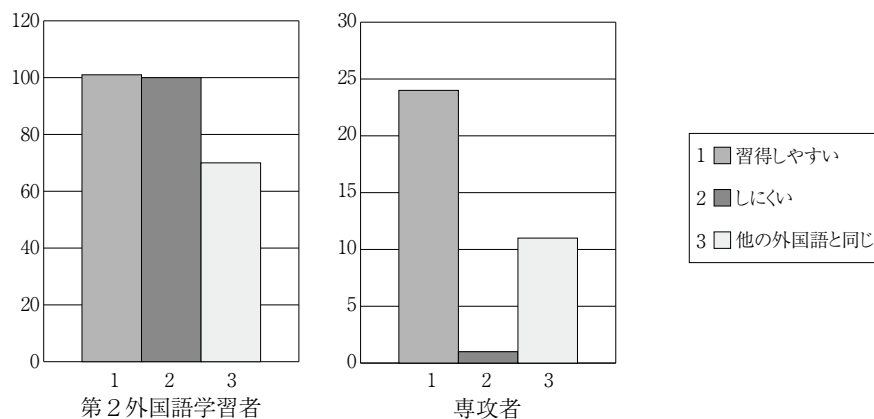
韓国語のレベルと心理的に感じる学習の難易度やその相関関係を調べるために回答者の韓国語レベルについて聞いた。その結果、第2外国語学習者の殆どは学習期間が短いので、入門と答えたのがもっとも多く、専攻者においても1年以上と答えた人が多かったのにもかかわらず初級や中級と答えた回答者が多かった。

〈表7〉韓国語のレベル

レベル	入門 (読み書きくらい)	初級 (簡単な会話)	中級 (意思伝達可能)	上級 (自由に会話が可能)
人数	244 (6) 名	23 (15) 名	3 (12) 名	1 (3) 名

尚、他の外国語と比べ韓国語の学習をどのように感じているか調べるために聞いた結果、第2外国語学習者においては「習得しやすい」と答えたのが37%、「習得しにくい」と答えたのが36.9%でほぼ同じ比率であった。一方、専攻者の回答においては「習得しやすい」と答えたのが66%と「習得しにくい」と答えたのが1人でパーセンテージでは2.7%に過ぎなかった。この結果によれば日本語母語話者は最初の入門レベルにおいては韓国語を難しく感じるが、長く学習し続け初級以上のレベルになると「習得しやすい」と感じている傾向が見られた。

〈表8〉学習難易度について

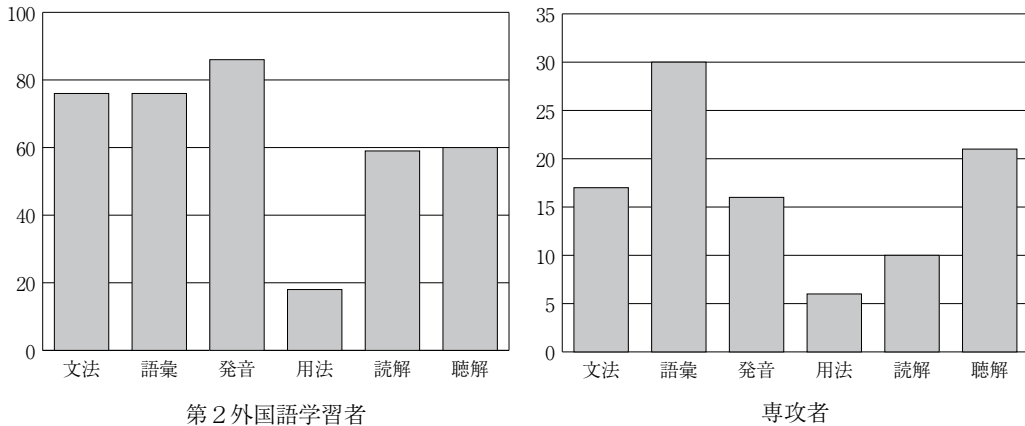


3. 3. 7. 韓国語学習における学習者の意識

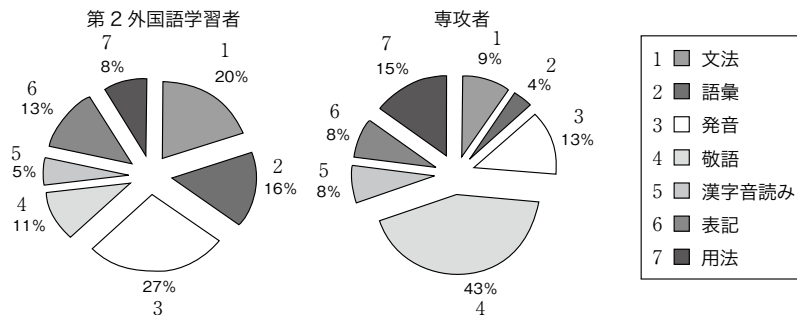
韓国語の学習における意識や問題などを部門別に調べるため「会話能力をアップさせるためにどのような勉強が必要か」と「韓国語の学習で難しく感じたところは次のどの部門ですか」という質問項目を設け調べた。その結果、第2外国語学習者は「発音」と答えたのが86回答数で、その次が文法や語彙で同じく76回答数であった。一方、専攻者の回答においてはもっとも多かったのは「語彙」で30回答数、その次が「聴解」で21の回答数であった。この結果によれば第2外国語学習者は韓国語の発音に難しさを感じるので、発音がうまくなれば韓国語の会話

能力が伸びると思う一方、専攻者は「発音」より「語彙」や「聴解能力」が会話に役に立つと思われる傾向がみられ、両方において意識の差が存在したことがわかった。

〈表9〉 会話能力をアップさせるための学習者の意識



〈表10〉 学習において難しいと感じる部門



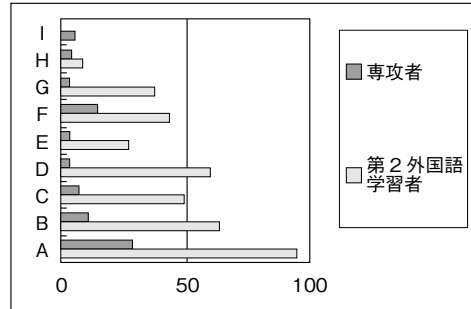
なお、韓国語学習において難しく思われる部分について調べた結果、第2外国語学習者は27%が「発音」と回答し、専攻学習者の43%が「敬語」と答え、それぞれ難しく感じる部分が異なることがわかった。この結果を分析してみると、初心者には「発音」が難しく感じられることと韓国語を専門的に学習した学習者には「発音」より「敬語」や「文法」などの言葉の活用に難しさを感じる傾向があると推察される。

3. 3. 8. 日本で行われている韓国語教育について

日本で行われている韓国語教育の現況や改善点を探るため「日本で行われている韓国語教育についてどのように思っていますか。(複数解答可)」と「韓国語教育を改善するためにどのような工夫がほしいですか。(複数解答可)」という質問項目を設け、調査を行った結果、「韓国語教育について」は次のような回答が得られた。

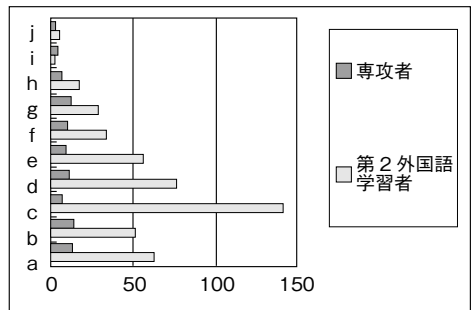
〈表11〉韓国語教育の状況について

A. 専門教育機関が少ない	25 (39) %
B. テキストが少ない	16 (14) %
C. コンテンツや内容が足りない	13 (10) %
D. 体系的に理解しにくい	15 (4) %
E. 専門化されていない	7 (4) %
F. 文化と関連した教育が少ない	4 (19) %
G. 視聴覚教材が少ない	10 (5) %
H. 上級者あいての教育やテキスト、資料が少ない	21 (5) %
I. その他	1 (1) %



〈表12〉韓国語教育における改善点

a. 文法体系を整理した教材の開発	13 (15) %
b. 発音教育のための道具開発	11 (15) %
c. 解りやすいテキストの開発	30 (8) %
d. 理解しやすい教育方法の開発	16 (13) %
e. 外国人のための韓国語教育や内容の専門化	12 (10) %
f. 韓国語教育の多様化	7 (11) %
g. 文化等と連携した教育が必要	6 (14) %
h. マルチメディア教材が必要	4 (7) %
i. 上級者用テキスト開発が必要	0 (5) %
j. その他	1 (2) %



日本における韓国語教育の現状について第2外国語学習者においては「専門教育機関が少ない」と思っている回答者がもっとも多い25%を占めた。その次に「テキストが少ない」が16%、「体系的に理解しにくい」が15%、「コンテンツや内容が足りない」が13%の順になっている。尚、改善点についての回答では「解りやすいテキストの開発」と答えたのが30%を占め、その次に「理解しやすい教育方法の開発」が16%、「文法体系を整理した教材の開発」が13%と上位を占めている。専攻者の回答でも「専門教育機関が少ない」が39%を占め、その次に「文化と関連した教育が少ない」が19%、「テキストが少ない」が14%と上位を占める。改善点としては、「文法体系を整理した教材の開発」と「発音教育のための道具開発」が15%ずつ、「文化

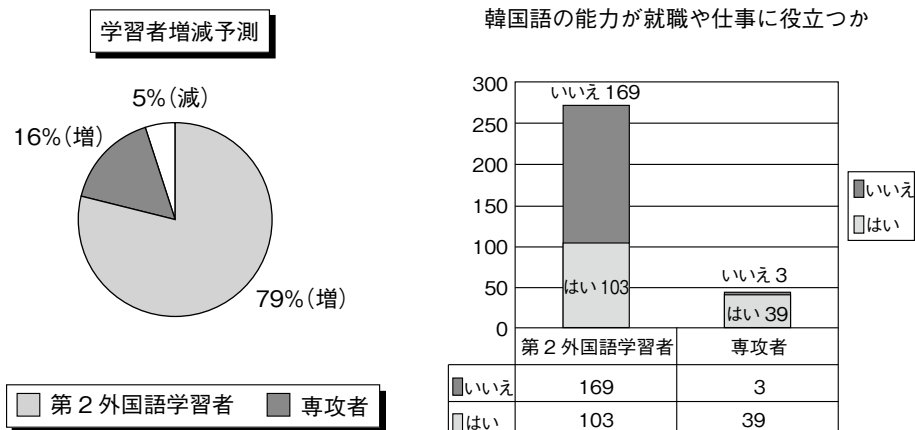
等と連携した教育が必要」が14%になった。この結果によると日本における韓国語教育の現状について多くの学習者は「専門教育機関が少ない」と「テキストが少ない」と感じていることがわかった。その他、第2外国語学習者は韓国語に関して「体系的に理解しにくい」と感じる一方、専攻者は「文化と関連した教育が少ない」と感じ、改善を要望していることが明らかになった。

3. 3. 9. 韓国語の学習者の数の増減や就職の展望について

これから韓国語の学習者の数の増減や韓国語を生かして就職や仕事の可能性あるかどうかについて質問した結果、「もっと増えると思う」が第2外国語学習者64%と専攻者79%と「今のままだと思う」が第2外国語学習者31%と専攻者16%、「学習者の数が減ると思う」と答えたのが第2外国語学習者と専攻者共に5%となった。この結果によれば第2外国語として韓国語を学習しているか、専攻として学習しているかによっていささかの差は見られるが韓国語学習者は現在より「もっと増える」と意識している。

尚、韓国語の学習と能力が就職や仕事にどのくらい役に立つかについての意識を調べるために「これから韓国語を生かして就職や仕事の可能性はありますか」という質問項目を設け調べた結果、「はい」と答えたのが第2外国語学習者38%、専攻者93%で、「いいえ」と答えたのが第2外国語学習者62%、専攻者7%を占めた。この結果を分析してみると専攻者の殆どは韓国語の能力はこれからの就職や仕事に役立つ可能性が高いことと見込んでいる反面、第2外国語学習者の半分以上がその可能性を低く意識していることがわかった。これは今後他の外国語の学習者の意識を調べ、比べる必要があると思われる。

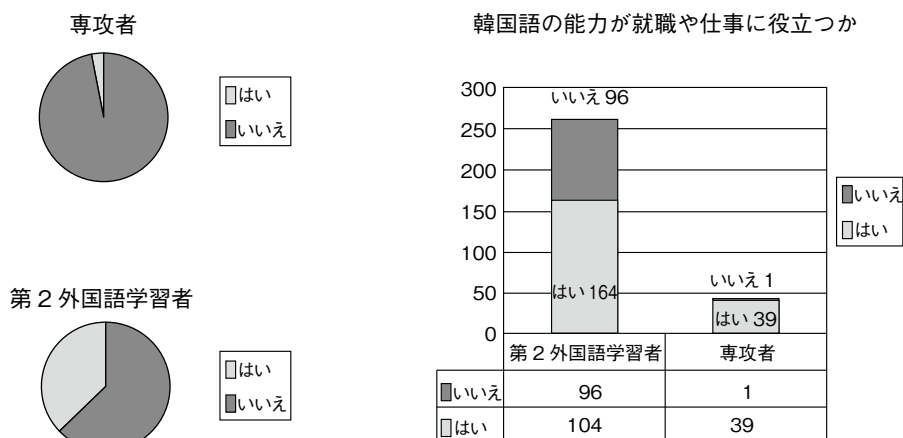
〈表13〉学習者数の増減や就職可能性



3. 3. 10. 韓国語能力テストと韓国語学習について

韓国語学習に伴って、自分の能力をチェックすることは学習のモチベーションや能力向上のためのきっかけにもなると思われる。しかし、日本語母語話者がそのことをどのように意識しているかは具体的な資料がない。したがって、能力検定試験と韓国語学習との相関関係や意識を調べるため「韓国語検定試験は学習に役立ちますか」という項目を設け調査した。回答の結果によれば第2外国語学習者の63%が「はい」と答え、「いいえ」が37%を占めた。しかし、専攻者において97%が「はい」、「いいえ」が3%を占め、専攻者においては殆どの学習者は韓国語能力テストが韓国語学習にかなり役立つと意識していることがわかった。

〈表14〉韓国語能力テストと韓国語学習の相関関係



3. 3. 11. 韓国語教育についての自由記述について

日本における韓国語教育について学習者の希望や改善してほしい点を自由記述形式で書いてもらった結果、様々な意見があった。しかし、ここでは原稿の制約などもあり、一部の内容だけを取り上げることにする。

自由記述による回答の内容を分析してみると、もっとも多いのは「韓国語の学習」に関することで理解しやすい方法、すなわち学習の仕方についての要望だった。その次がわかりやすいテキストの開発のことで韓国語テキストは他の外国語テキストに比べて種類や数がすくないことを指摘している。尚、日本現地で行われている韓国語教育にはテキストとしてハングルや英語だけで説明されていることも多く、韓国語を第2外国語として学習する人には説明を理解するのが難しいので説明部分を日本語で書いたテキストを要望する声もあった。その他システムの問題で専門教育機関が少ないことや韓国語教育の専門化や体系化、高校における韓国語教育と大学の教育との連携などがほしいという声もあった。

〈表15〉自由記述による要望

1. もっとわかりやすく理解しやすい方法を知りたい。
2. 韓国語を専門化してほしい。
3. 覚えコツを教えてください。
4. 漢字語はすらすら頭にはいるが固有語がなかなか覚えられない。
5. 日本には韓国をよく知っているのは中高年のおばたりにあんだけなので、もっと広い世代に伝えられるように努力が必要。
6. 韓国語の教科書を書店で探していると英語の教材よりはるかに少ないので改善していただきたいです。
7. 会話をもっと沢山できたらよいと思う。
8. 読みや話す能力を効率よく伸ばすためにも日本語話者には発音が体系的にかかれた教材が必要だと思う。
9. より実生活で使える学習法があると良い。
10. 専門教育機関の拡大。
11. 日本語と韓国語をそのまま置き換えるのはできないので、如何に韓国らしい発想に近づけるかを教育する必要があると思います。
12. 高校から大学へつながる韓国語教育になることを願います。
13. もっと専門的に系統化してほしいです。はじめてばかりで、発音と書くのがとても難しい。
14. テキストの文法の説明に日本語を少し入れてほしい。
15. 話せばもっと面白いと思う。外国人にもわかりやすいテキストを使ってほしいです。
16. ハングルの発音と表記を最初にしっかりやったほうが良いと思う。
17. もっとわかりやすく、まとめた本があればいいなと思います。
18. クラス分けをもっと細かくしてほしい。
19. ハングルが読めなきゃ何もできないので、大変です。改善策を考えてほしいです。

4. おわりに

日本語を母語とする韓国語学習者は21世紀に入り、以前と比べてさらに拡大しつつであると認識されている。そのなか、実際学習者達は韓国語やその教育のあり方についてどのように感じているかについて意識調査を行った。

調査項目として三つの分野に分け「学習者の学習動機や目的」、「学習における学習分野別の難しさや問題点」、「学習者の展望や改善点」などについてそれぞれ項目を作り調査を行った。その結果、「学習者の学習動機や目的」について第2外国語学習者は「単位が必要なので」と答えたのがもっとも多い140回答で凡そ30%に達し、専攻者は「面白そうで」「韓流の影響で(スポーツ選手を含め)」が同じく22.7%を占めていることがわかった。これは第2外国語学習者の多くは「大学の単位」を動機として持ち、いわば消極的、間接的な動機を、専攻者は興味による積極的、直接的な動機を持っていることと分析される。尚、学習の目的としても第2外

国語学習者と専攻者の答えは異なり、第2外国語学習者の18.7%が「趣味で」学習をしていると答え、最も多い回答であった。一方、専攻者の回答でもっとも多かった回答は「将来の就職のため」で16%を占めたが、その他「韓国人と交流をするため」が15.5%、「韓国の社会や文化、歴史等を知るため」が14.9%になった。この結果によれば第2外国語学習者と専攻者の韓国語学習の目的が多く異なることがわかる。したがって、これからの韓国語教育においても第2外国語学習者と専攻者のそれぞれの学習の目的にあわせ教育が行われるべきと思われる。

韓国語学習においてどの分野をもっとも難しく感じるかと会話能力のため必要と思っている分野を「文法」、「語彙」、「発音」、「用法」、「読解」、「聴解」とわけて聞いた。その回答においては第2外国語学習者の中でもっとも多い27%が「発音」と答え、専攻者の43%が「敬語」と答えた。すなわち、初心者には「発音」が難しく意識されるが、専攻として韓国語を学習している学習者には「発音」より「敬語」や「文法」などの言葉の活用に難しさを感じるということがわかった。したがって、これからの韓国語教育においてはテキスト作成や教育においてこの結果を参照すべきであろう。

韓国語や韓国語教育のあり方や展望、改善点を調べるためそれぞれ項目を作り、または自由記述形式で調査を行った。これからの韓国語学習者の増減について「もっと増えると思う」と答えたのが第2外国語学習者64%と専攻者79%となった。すなわち日本における韓国語学習者たちはこれからも韓国語教育は拡大される要素が十分あることと意識していることがわかった。

韓国語の能力が将来の就職などに役に立つかについての質問では「はい」と答えたのが第2外国語学習者38%、専攻者93%となり、専攻者は肯定的に考えているが、第2外国語学習者はあまり役立つとは思っていないことがわかった。

なお、最後に自由記述による学習者の意見を調べた結果、多くの学習者が「もっとわかりやすく学習したい」という要望が多かった。また「わかりやすいテキストの開発」を求める声も多かった。その他専門教育機関や韓国語教育の専門化や体系化などシステムに関する指摘も多かった。

外国語学習者の増減にその言語の国との政治、経済、文化など様々な要素や関係が影響をあたえると思われる。今回の調査においても韓国語専攻者の多くは「韓流」が動機になったと答えた。一方、韓国における日本語学習者は報告によれば948,104人⁽⁵⁾と把握されて世界でトップを占めている。そのような現状と比べても日本における韓国語学習はこれよりもっと増える可能性は十分あると思われる。したがって、韓国語普及や教育を拡大するためにはその政策を作り、専門教育機関などの施設、適切な教材、また地域における教授法の開発や教育担当者の情報共有などのシステムの構築が必要であると思われる。

【注】

- (1) 大学における韓国語教育の実施状況が着実に拡大されていることは確かであり、関係者の多くがここ数年の拡大傾向を認めている。〈小栗 章(2007)『韓国語教育論講座 第一巻 「日本における韓国語教育の現在」』くろしお出版〉
- (2) 野間秀樹編(2007)『韓国語教育論講座 第一巻』くろしお出版、51ページ
- (3) 学習形態について回答したのは合計294人で、18名の回答者は学習形態について無回答であった。以下全回答者の数と部分的な回答者の数が一致していない理由はその無回答によることである。
- (4) この質問には多くの回答者が複数の答えをしたので、回答者数が多くなっている項目もある。
- (5) 日本国際交流基金『海外の日本語教育の現状—日本語教育機関調査・2003年—(概要版)』参照

【参考文献】

小栗 章(2007)『韓国語教育論講座 第一巻 「日本における韓国語教育の現在」』くろしお出版
日本国際交流基金『海外の日本語教育の現状—日本語教育機関調査・2003年—(概要版)』